

平成29年度生野区区政会議(第2回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言と区の方考え方・対応

開催日:平成29年11月9日(木)

場所:生野区役所5階 502・503会議室

発言者	ご意見・ご提言(要約)	区の方考え方・対応(要約)
山本委員	将来ビジョンの資料における地域別の人口が割合で表記されているが、イメージが掴みにくいので実数も表記してほしい。	よりわかりやすい資料にするために、ビジョン素案においては、地域別人口グラフを実数による表記にした。
川上部会長	区に対する魅力についての区民アンケート結果をみると、どちらかといえば感じないという方が半分ぐらいいるので、あまり住みたくないまちかと思われる。もう少し何とかこれに対するの努力、我々の地域を活性化していくために具体策を考えていかなければと思う。	区民アンケートからも示されているとおり、区民が自分たちのまちに対して魅力を感じるようになることは、生野区が持続可能なまちになるうえで、大変重要な課題であり、課題解決に向けて、区にある地域資源を上手く内外に情報発信していくといったシティプロモーション戦略を委員の皆様にもお知恵をお借りしながら進めていきたい。
川上部会長	北巽地域では日本語学校があり、多くの留学生が住んでいる。日本語学校ができた当初は、文化の違いもあり近隣住民から苦情も出ていたが、日本の生活様式を教えることで、徐々に打ち解け、現在では、区の一斉パトロールに学生が参加するなど地域イベントを一緒に行うなどの多文化交流を進めている。	外国籍住民の留学生も増加している中、そのような形で地域住民の一員として交流が図れることは、多文化共生ということからも望ましいものと認識しており、区役所としてもこのような地域コミュニティへの参画・協働を支援していきたい。
和田委員	大阪市内で、西区などにタワーマンションが建ち、人口が増加していると思うが、そのような地域では、どのようにして新しい地域コミュニティを形成しているのか。	生野区ではタワーマンションの事例がないが、市全体では、タワーマンションのコミュニティの在り方も議論されており、いざ災害になった場合にどのように伝達していくのか等が課題になっている。 個々の事例までは把握できていないが、基本的に販売業者と協議して分譲の際に町会への加入について説明をしてもらっていると聞いている。
服部副部長	生野区は新しい建物が建つ地域もある一方で、高齢化と同時に空き家の増加や建物の老朽化が進んでいる地域があり、長屋で空き家になった場合など、処理が難しい。そんな中で未来のまちづくりを考えていくのは難しいと認識したうえで、どうしていくかを考えていくべき。	現在策定中の区の将来ビジョンおよび区の運営方針においても、空き家対策はまちづくりを進めるうえで大きな課題であり重要な施策と位置付けており、引き続き、空き家発生防止に向けた啓発・相談をはじめ、空き家の適正管理のための相談・指導や老朽住宅の自主建替に向けて支援をしていく。

発言者	ご意見・ご提言(要約)	区の考え方・対応(要約)
伊藤(千)委員	生野区でも、若者が転居して店を経営しているケースもあり、古い長屋や空き家に興味のある方も確かにいるが、そういう空き家情報を知っている方が少なく、シティプロモーションの話にもつながると思うが、空き家のマッチングとか、情報を上手く区内、区外に伝える取り組みを考えていけたらいいと思う。	そのような区にある地域資源を上手く内外に情報発信していくといったシティプロモーション戦略を、委員の皆様にもいろいろとお知恵をお借りしながら進めていきたい。
伊藤(千)委員	古い町並みや古い建物に魅力を感じている若い方は多いが、生野区に古い町並みが残っていることを知っている方は少ない。うまく情報発信をする取組みが大切。 兵庫県西脇市や佐賀県唐津市のHPは新しく居住してきた方にも見やすいもので好事例だと思う。	
亀田委員	生野シティプロモートとあるが 例えば近くに病院があるとか、子育てのしやすい施設があるとか、ターゲット毎にPR戦略を練った情報発信を行ってはどうか。	情報発信の方法は少しずつ改善に取り組んでおり、子ども・子育てプラザにおいて子育て情報のホームページがもうすぐ完成する。それ以外にも「戸建て住宅で“のんびり子育て”」や「保育施設の待機児童が少ない」など生野区に来たいと思っただけのPR活動を行っていきたい。
和田委員 山本委員	ホームページは、用事があれば見るが普段は見ない。その点で言えば広報紙は非常に大切な情報発信の媒体と考えている。生野区では新聞折込みと申込みがあった方に配布しているだけで、全戸配布まではしていない。他区では全戸配布をしているケースもある。予算に限りがあると思うが検討してほしい。町会で回覧という方法もある。また、コミュニティビジネスとして広報紙の配布を地域に任せてみてはどうか。	広報紙は非常に重要な情報発信の媒体であることから、生野区では、新聞折込だけでなく、必要な方への個別の配布や、さらには区内の郵便局や銀行、鉄道駅等にも配架している。今後は、ご指摘にある全戸配布やコミュニティビジネス化といった点も含めて必要な方に必要な情報を確実に届けられるよう検討し、限られた予算の中で創意工夫をしながら進めていきたい。

平成29年度生野区区政会議(第3回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年2月22日(木)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
亀田委員	雇用対策も兼ねて、若者への技術継承とは別に経営者の世代交代のセミナーや相談窓口の紹介などもしてもらえれば、後継者不足も解消できると思う。	事業承継を始めとした経営者向けのセミナーや経営相談については大阪産業創造館で実施していますので、その点も区役所ホームページでも発信していきます。
亀田委員	生野区の魅力発信・浸透というところで、各地域まちづくり協議会は、ホームページやブログをしていると思うが、地域で掲載業務を行うことは難しい。一方、区役所も生野の魅力の発信など情報の周知に苦慮していると思う。地域まちづくり協議会で区役所用の記入アカウントを作成するので、区役所でまとめて掲載作業を担ってくれれば、内容の充実も図れて、一石二鳥だと思う。	地域まちづくり協議会のホームページやブログにおいて、各地域の魅力を掲載し発信いただくことは、区民のわがまち意識の向上や区の魅力の浸透へとつながると考えられます。当区としても、引き続き中間支援組織と連携して、地域における魅力情報の掲載・発信の支援を行っていきます。
和田委員	勝山地域ではブログの周知を図るため、広報紙にブログのアドレスをメインに掲載し周知した。これによって、アドレスはある程度地域に周知できたと思う。次の段階として、今までブログには地域で行った行事の結果ばかりを掲載していたので、今後は行事の予定も掲載するようにし、今までの紙ベースでは割と目の届かなかった方も、ブログを見て参加していただけるようにする。	—
山本委員	ブログに記事を掲載している方は、本当に一生懸命作ってくれている。ただ、閲覧の件数は少ないと思う。今度は逆にブログを作成して、それを紙媒体にして全戸配布すれば、年齢に関係なく全世帯に情報が行き届くと思う。	—
伊藤(千)委員	生野区のあちらこちらで空き家をリフォームして、住まいとして活用するだけでなく、地域の方とお茶を飲めるスペースを設けたり、発達障害の方も参加できるヨガ教室を開いたり等、地域コミュニティの形成にも繋がる空き家の利活用が進んでいる。	—
伊藤(千)委員	今、空き家のリフォームをDIYのワークショップとして、幅広い年代の方が集まって行っている。そこでは、様々なアイデアが出ており、一緒に作業する中での連帯感や愛着もわいてきている。わがまち意識を育てるということにも繋がっていると思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
和田委員 川上委員	<p>ここ数年で生野発祥の「スリーアイズ」が急に盛り上がっており、実際に遊んだら年齢関係なく遊べて、すごくおもしろい。今年の生野区のスリーアイズ大会も盛り上がった。これがもっと広がったらコミュニティに繋がると思う。</p>	<p>スリーアイズは大阪市スポーツ推進委員生野区協議会が考案したニュースポーツで、子どもから高齢者、障がいのある方まで一緒に参加できるスポーツです。区のスポーツとして普及させ盛り上げていきたいと思ひます。</p>
川上委員	<p>匠の継承、技術はすぐには覚えられないので難しい。ものづくり百景ではなく、学生が研究テーマとして、人に焦点を当てた「たくみの冊子」を作っても面白いと思う。</p>	<p>今年度に大阪経済大学のゼミ生が生野区の職人をテーマとして調査することとしており、先日も生野区のまち歩きと職人の工場を訪問してきました。その調査結果をものづくりの魅力として発信できればと思ひます。</p>

平成30年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年5月15日(火)

場所:生野区役所6階 604・605会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
亀田委員	地域活動協議会に対する財政支援の件に関連して、地域で紙ごみの収集を古紙回収業者に委託契約して回収する「コミュニティ回収」が始まっているが、現在の実施状況や財政的な収益金額はどのようになっているのか？また、区役所として勧めていくようなことはしているのか？	コミュニティ回収の実施状況だが、地域で積極的に広めていただいている効果もあり、平成30年3月現在として、19地域の内、13地域で実施していただいております。大阪市24区でもかなり多い方に入っている。財政的な収益の詳細については把握していないが、自主財源の確保との観点から、区役所としても非常にありがたいと感じており、今後実施したいという地域があれば区役所としても協力できることがあればしていきたい。
山本委員	資料の中に、目標60%以上、実績41.2%など記載があるが、これは何の数値なのか？	毎年1,500件を無作為抽出した区民アンケートの結果からの数値となる。区政会議でお示した資料には具体的な数値までは記載されていないが、区民アンケートの報告書には具体的な数値も記載している。なお、報告書は区ホームページで公表しているのので、そちらをご参照願いたい。
山本委員	LINEスタンプを作成し販売しているが、どれぐらい販売でき、どれぐらいの収益があったのか？	平成30年1月に販売を開始して、4月までの累計で、500個弱売れている。収益については、1個あたり平均約30円が区の収入になるため、1万4,000円弱となっている。
亀田委員	掲示板に、『「広報いくの」届いていますか？』のポスターが貼られているが、郵送とホームページ以外で閲覧する方法、例えばアプリでの閲覧のリンクのQRコードを付けてはどうか？	「マチイロ」というアプリで各区の広報紙を掲載している。現在、ポスターにQRコードは付いていないが、より効果的な情報発信として、今後の参考にさせていただく。 【補足説明】 ・広報紙のリニューアルに応じて、無料でお届けしますというカラーのポスター(QRコード入り)を新たに作成し、区内のすべての掲示板にて周知した。なお、このQRコードでアクセスした広報紙の申し込みのページには「マチイロ」アプリのダウンロードの紹介も掲載している。 ・さらに、「マチイロ」自体の紹介ポスター(アプリダウンロードQRコード入り)についても別途作成したので、引き続き区内への周知を図っていく。
山本委員	「広報いくの」が5月号から、随分変わり、華やかになったという印象を受けた。表紙の写真などは、職員の皆さんが撮ってきた写真とのことなのでその説明をして、地域の人に読んでもらうように宣伝する。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
伊藤(千)委員	「桃谷ロイター」という歴史なども入れた地域情報紙を発行している。配付先は、これから広く開拓していく段階で、生野区内の飲食店や区の施設、図書館、社会福祉協議会、大学の研究室など、つながりのあるところから順次お願いしていこうと考えている。昨年度は大阪市ボランティア活動振興基金の助成を受けて、ゼロ号と1号については、1,500部ずつ発行した。今年度は、別の助成金を受けられることができたので、継続して発行することができる。どうしても財源の確保の問題が生じるので、次年度からは企業の広告を入れるなど、賛同を得て続けていきたい。	—
服部委員	「民泊のごみの出し方が悪い。」と地域で多くの声が挙がっている。外国籍の方は日本のごみの出し方が分からないので残飯なども関係なく出して、猫がごみを荒らして困っている。何か良い方法があれば教えてほしい。	民泊からのごみは、一般的な大阪市の回収とは別の事業系ごみとなり、事業者が適正に処理をする必要がある。適正なごみ処理ができていないということは、違法民泊の可能性もある。大阪市保健所に民泊の相談窓口(通報窓口)があるので、そちらを活用願いたい。 【補足説明】 違法民泊相談窓口(通報窓口) ・・・大阪市保健所 環境衛生監視課 旅館業指導グループ 電話:06-6647-0835
山本委員	区政会議の全体会の配置について、議長への質問は前を向く、区役所からの回答は後ろを向く形になっている。前後を向くのではなく、前のみを向いて行えるようにしてほしい。また、全体会は2時間しかないのに、質疑の時間を多くとるという観点から前段の説明の部分を短くし、できるだけ皆さんで話し合う時間を多くとる仕組みを考えてほしい。	今回のご意見を踏まえ、次回の全体会には工夫させていただく。
山本委員	中間支援組織について、2年に1回交代することになっているが、現在の中間支援組織には非常に助けられている。引き続き、同じところと契約することはできないのか？	大阪市の制度では、本来、1年毎に選定をする必要があるが、生野区では1年目の評価を見たうえで、最大もう1年延長できるという形にしており、最大2年の継続になっている。それ以降はあらためて選定せざるを得ず、何卒ご理解願いたい。
伊藤(千)委員	毎月19日の「いくのの日」に合わせて空き家カフェを開催している。空き家カフェでは、空き家のオーナー、住む場所や何かをやりたい場所を探している人たち、など20~30人の方が集まって情報交換を行っている。情報交換をする中で、実際に空き家を活用した事例が少しずつ増えてきており、この活動がさらに地域で広まり、空き家の活用事例が増えていけばと思う。	—
川上委員	ものづくりの匠の小冊子を作成したら面白いというところから、生野区のまち歩きと職人の工場を訪問している。その調査結果をもものづくりの魅力として発信できればと考えている。	—
亀田委員	生野区の地域で行う行事の景品などは、地産地消というか、地域活性化のためにも、地域でものづくりをしているところから購入するなど、地域にお金を落として、また次に回していくという形にしている。	—

平成30年度生野区区政会議(第2回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見・ご提言(要約)と区の考え方、対応

開催日:平成30年10月30日(木)

場所:生野区役所6階 502・503会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
亀田委員	オリジナル婚姻届をつくるのは良いが、提出してしまうと手元に残らないのは寂しい部分があるので、受付の返送書類や、写しをオリジナルのデザインで返すというようなことを考えた方が良いと思う。	複写式などで、お手元にお返しするということは特に考えてはいませんが、例えば、スマホ等で写真に撮るなどの方法で記念に残していただければと考えている。
川上部会長 和田委員 山本委員 亀田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・北翼地域では去年から日生学園の留学生を交えて、スリーアイズ大会や一斉パトロールなどを行っているが、スリーアイズ大会の賞品や一斉パトロールのお茶代などは町会費から支出していることもあり、「地域一体で一緒に輪の中に入って、仲良くやっていく。」という趣旨は理解してくれているものの中々うまくいかない。 ・住民側からすれば、どういう人かわからないこともあり不安を抱えていると思う。どこの学校に行って、どんな勉強をして、どこに住んでいるなど、情報を開示すれば地元の人でも安心して受け入れられる体制になると思う。 ・いきなり最初から何もかもうまくいくということはないと思う。回を重ねていくことが大切だと思う。 ・中川地域に外国の方向けの寮が建っている。ごみ出し方や騒音などでトラブルになることは想定できたので、建築中からオーナーと話し合い、入居者は町会に入ってもらうようにしている。 	—
山本委員	東桃谷地域では新しい防災マップも完成し、避難所への避難訓練も行った。地域防災計画では、公的機関が支援できるまでには数日掛かるので、それまでの間は地域で備蓄物資を使って何とかするようになっている。もし災害があった時に避難した後、誰がどういう指示をして、どういう形で避難所を運営していくのかという訓練をしていないので、パニックになると思う。「自分の命は自分で守る!」ということは浸透してきているので、ある程度、区役所がリードをとって進めてほしい。	—
亀田委員	ホームページ、フェイスブック、ツイッターは起動して見に行く必要があるが、メールの場合は自主的に見に行く必要がなく、受け身で情報を得られるので便利だと思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
<p>和田委員 山本委員</p>	<p>・台風の際に避難所が開設されたと思うが、バリアフリーのトイレが1箇所ぐらいしかなく、また高齢の方のトイレの介助だけでも大変だった。もっと多くの方が避難した場合はさらに大変になるので、勝山地域では今度、介助の講習を受けようと企画している。また、学校もバリアフリーのトイレを増やすなど早急に対策をお願いしたいし、洋式のトイレを増やしてほしい。</p> <p>・簡易トイレでマンホールの上に置くトイレがあると聞いた。そうすれば水も要らないし、下水にそのまま流れる。災害時に便利だと思う。</p>	<p>マンホールの上に置く簡易トイレは、区内の幾つかのマンホールでは設置することができるが、下水の配管が傾斜している必要があるため、すべてのマンホールに設置できるわけではない。</p> <p>【補足説明】 平成22年度～平成25年度にかけての計画で、小中学校の各フロアに最低一つの洋式ブースを設置することとされ、生野区内の小中学校すべてに設置されました。今後は、校舎の老朽化対策である校舎改築等を実施する際に、学校と協議の上、順次洋式化を図ることとしています。</p>
<p>服部委員</p>	<p>この前、林寺・生野・舎利寺・田島・西生野の地域で今宮小中一貫校の見学に行ったが、参加者が少なく、寂しい見学会だった。今宮小中一貫校を見学して、学校の付近の環境は非常に良くなっていた。見学をして反対というのは良いが、見学もしないで反対というのはおかしい。</p>	<p>小中一貫校の話し合いは、平成25年度ぐらいから始めており、長引いていることから関心がどんどん離れ、参加者が少なかったことは大きな課題だと考えています。また、見学会は、学校に“子ども”がいる状態で行う必要から平日に限られ、来ることができない保護者の方もいたと思います。今後、見学に行ってもどのような状況だったなどの情報は発信をしていきます。『学校づくりは、まちづくり』そのものだと考えているので、良い学校をつくりたいと考えています。</p>
<p>川上委員</p>	<p>まちづくり協議会と連合振興町会、地域女性団体協議会と地域振興会の女性部などの団体は、活動がよく似ており、整理してほしい思いがある。そのことについて、どのように考えているのか</p>	<p>まちづくり協議会の中に地域振興会や社会福祉協議会などの各種団体があり、まちづくり協議会は様々なことを一緒に行っていくための大きな器を考えています。その中で、それぞれが互いに役割を果たしていくことが基本の考え方となる。確かに分かりにくい部分はあるが、それぞれが様々な活動を一緒になって行っていく中で、様々なことができると考えています。</p>

令和元年度生野区区政会議(第1回まちの未来部会)
 いただいた主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日: 令和元年6月3日(月)

場所: 生野区役所5階 502・503会議室

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
川上委員	地域の匠ともっと連携して何かイベントなどを開催して活性化することが必要ではないか。チラシ等で宣伝願いたい。	基本は生野工業高校の生徒を対象にしている。以前、アンケートにおいて、生野区のものづくりを知らなかったという意見があったため、実際に体験し興味を持ってもらう予定だったが、ハローワークが開催するイベントと重なったため、結果、目標達成には至らなかった。今年度はやり方を見直すとともに、積極的にPRしていく。
川上委員	事前のPRが行き届いていなかったと思う。また生野工業高校に限定せずに、広い観点からPRを行ってほしいと思う。	協力いただける企業となるため、こういったつながりが出来ているところが中心となる。ものづくり百景のパネルの件については、今後の参考にさせていただく。
亀田委員	インターンシップの募集前に、ものづくり百景のパネルを生野区工業高校の廊下に並べるなどし、この中から選べるというかたちをとるのもひとつの手である。	
亀田委員	仮に100人がインターンシップしたとして、うち1人でも就職する人がいたらよい。評価項目の中で地元での就労を重点に置いた方がよいのではないか。	まずは広く知ってもらうことから始めている。今年も同じやり方で実施するかについては、今後検討したい。よく知ってもらうということであれば、大阪テクノマスターという制度がある。そこに選ばれた方はものづくりのマスター、プロということで表彰されている。また、一番大事なものは、これからの子どもたちにもものづくりの楽しさや良さを知って頂くことだと思っている。
山本委員	インターンシップは就職しようとして参加しているのか、こういう企業があるということで参加しているのか。就職するために参加するのであれば、企業側として雇い入れが可能なのか。どうすればインターンシップに参加する人を増やすことができるのかを考えるべきである。	
山本委員	日本の伝統的な文化、ものづくりは、別に日本人でなくても、外国人も一生懸命やっている。また工業高等学校でなくても、普通科の高校でも何でもよいと思う。工業高等学校以外にも周知することで、もしかしたら大学に行こうと思ったが、こっちの方がいいという人も出てくるかもしれない。紹介する学校をもっと広めれば参加する人も増えるのではないか。	—
伊藤委員	これまでに掲載しているものづくり企業の中で辞退された会社はないのか。桃谷ロイターを作成している中でも、次号で掲載する予定であった会社が先月廃業したことから、ものづくり百景ではどのような状況なのか伺いたい。	現時点で廃業は2社あるが、廃業されても中身は見えていただくことは可能である。

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
服部委員	工業統計調査を実施しているなかで、去年は1件、今年では3件が廃業であった。西生野の管内で30件ほど回っているだけでも3件が廃業しており、起業の話は聞かない状況である。	—
川上委員	ものづくり企業の廃業を少しでも防ぐために何かいい手立てはないか。区民に知らせることも大事。廃業を少しでもなくしていくためには、一覧表などを作成し、PRを行っていかないと後継者はいなくなっていく。今のうちにどんどんPRをしていかないといけない。これから何度も取組をしていかないと、結果は難しいのでは。	—
和田委員	最近、外国人が非常に多く住んでいる。災害が発生した場合、それらの外国人に対して、どのように対応すればよいか。また、夜に騒いでトラブルにもなっているが、言葉がしゃべれないため静観している。今後、人数が増えて、もっと大きな問題になったら大変である。これからの方針を聞きたい。	昨年10月からやさしい日本語の取り組みを始めている。ステッカーは日本語だけではなく、英語、中国語、韓国語、ベトナム語に翻訳しており、やさしい日本語の缶バッジも2種類作成している。また、日生日本語学園と包括協定を結んでおり、やさしい日本語や多言語化にも取り組んでいる。今後、日生日本語学園に協力いただき、いろんなイベントでやさしい日本語を体験できるコーナーを作るなどの機会を増やすなど、講習会を開催していきたいと考えている。また、「ボイストラ」というスマホの翻訳アプリも役立つ。災害時のやさしい日本語でのツイッターやフェイスブックでの発信も行っている。
山本委員	外国人に対し、一人でも優しい言葉をかけていくことが大事である。コンビニに行くところの店員が外国人である。どこから来たのかななどの日常会話をしている。そういった会話が広がれば、相手と通じ合うことができると思う。一度みなさん試してみしてほしい。確かに、そういった問題があるのも事実であるが、現実に今外国人が住んでいるのも事実であり、やはり互いに仲良くしていくしか道はないと思う。この4月から外国人労働者も沢山入国してくるので、時間はかかるが、我々も意見を出し合って、ひとつひとつ積み重ねていくしかないと思う。	—
川上委員	日生日本語学園から同学園の生徒に対して、入居する際に生活マナーを書いたものを渡してもらっている。以前は夜中に騒いでいたが、今は夜も静かである。やはりこちらから働きかけをしてあげないと相手はわからない。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
服部委員	昔から外国人の近隣迷惑でいい思いをしていないことも多いため、警察に対処してもらったこともあり、どこか拒絶反応がある。そういったネガティブイメージもあるのも現実としてある。	—
亀田委員	中川地域では、災害対策用に「イーリートーク」という翻訳機を2台購入した。WifiやSIMカードでのネット通信環境が必要。海外でテストしたが、きちんと使えた。防災や犯罪、病気など不慮の際に困った場合やイベントにも利用できる。	—
川上委員	ある地主の方が近くにいるが、空き家を放置しているため、今ではごみの山になっており、うち電化製品が半分かくらい山積みになっていた。今はネットで覆っている。地主がいる限り法的には何もできない状態とのことである。また以前よりもひどくなっているため、防犯カメラを設置してもらったが、放火が心配である。行政代執行ができる方法はないのか。	大きな課題として認識している。特定空き家において、危険な空き家に対しては指導を行い、場合によっては行政代執行を行っているが、要件について、明確な基準が大阪市ではないため、庁内の関係局が集まって基準づくりの検討を進めている。また報告できる段階になれば報告させていただく。
亀田委員	以前にごみ屋敷で行政代執行を行っていたが、そちらの扱いでの対応はできないものか。空き家の問題はいろんな問題が複層している。コミュニティとともに解決していかなくてはオーナーが高齢化して、空き家の売買手続きも面倒となるなど、非常に解決が難しい。	ごみ屋敷というのは、基本、人が住んでいることが前提である。また大阪市内でごみ屋敷条例があるが、これまでに適用されたのは1件のみである。自分のごみではないので、処理できないなど、さまざまな点を考慮して一定の指導基準を検討していきたいと考えている。
伊藤委員	資料にもあるように、毎月19日に「空き家カフェ」が民間主体で開催されており、そちらにも参加しているが、5月29日には、その一環で、実際に空き家の活用事例を見学するというまち歩きを行った。やはり現場に出向くのは実感もあり、興味深そうに参加されていた。もし空き家のオーナーさんで、活用を相談したいとか、興味ある方にご覧いただきたいと思われる方がいれば、ご紹介いただきたい。また、こういった、空き家の面白さや、ものづくりの魅力、まちの雰囲気と一緒に体験できる機会もあってもよい。空き家の問題解決は、複雑で、ケースバイケースでの対応となるが、根気強く進めていくしかない。	—
山本委員	空き家問題も自然淘汰的なところもあり、区内でも新築に建て替わっているところもある。売れているということは、若い世代が入ってきていると思う。	—

発言者	ご提言(要約)	区の考え方、対応(要約)
和田委員	「広報いくの」の全戸配布は、新聞をとっていない家には非常にありがたい。	—
山本委員	「生野の魅力」の発掘・浸透のプレスリリースだが、どのような内容をプレスリリースしているのか教えてほしい。	やさしい日本語を始める時や昨年12月に行った外国人との交流イベントのこと、子育て(いくのっこ広場)関係、昨年6月に行った第1回生野ラグビーフェスティバルなどである。